

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・感染症予防のため、個人や少人数で、表現する場面が増えた。ある意味緊張感を持って取り組むことが音楽に集中することや技能の向上にも役立っている。特に技能においてICTを活用して説明したり、運指や手の位置、持ち方などをクローズアップして見せたりすることによって、苦手意識を持っている児童も理解しやすくなった。
- ・低学年では、音楽全体の雰囲気を捉えて身体反応を楽しみながら聴いたり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動を十分に行った。リズムのくり返し、ひとつの楽器の音に着目した聴き方をさせるなど音楽を分析的に聴き取る活動を段階的に意図して行ってきた。それにより、よく聴き取ろうとする態度、経験を生かして音楽の特徴を見つけようとする力が伸びてきている。
- ・中学年では、ICT教育機器を活用したリコーダーの奏法指導が、姿勢や運指など基礎的な力をつける段階で有効だった。
- ・高学年では、より良い演奏にしようと考えて、音の重なりを感じて演奏したり、曲の感じを特徴付ける要素を考えたり気づいたり出来る場面が増えてきている。

(2) 課題

- ・感染症予防の観点から、特に声を聴き合いながら歌う学習は難しい。聴き取る力を育てながら歌唱に対する意欲を持たせ続けられる歌唱指導を模索する。
- ・ICT教育機器の活用について、さらに研究研修を深め、様々な場面で利用できるようにする。特に、意見交流に活用できるようにしていく。

2 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音譜・休符・記号や用語の定着に差が見られる。	・音楽を聴いて感じ取ったことが、その音楽のどんな要素からそう感じたのかがはっきりしていないことが多い。	・よりよい表現にしようと範唱や範奏、友達の演奏を注意深く聴いて、自分の演奏に生かそうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・鍵盤ハーモニカの奏法では、ICT教育機器を活用して図・映像などでわかりやすく提示し、個に応じた指導をする。	・音楽を聴きながら、拍にのって体を動かしたり、手拍子やリズム楽器でリズム打ちをしたりしながら音楽を全体で感じ取ることが出来る。	・他教科の学習、季節、行事など児童の生活に関連付けた楽曲を選定し、より思いをもって表現できるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> ・短いフレーズでくり返し歌ったり演奏したりして、基本的な技能を確実に身に付けた上で、習得した技能を生かして演奏し技能の力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽から感じ取ったものを体の動きで表現する活動を通して、音楽の要素に気付かせ、言語と併せて理解を深められるようにする。 	
---	--	--

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音譜・休符・記号や用語をくり返し取り上げるとともに、短い楽譜を書いて表すなどにより定着を図る。 ・自然な発声で、自分が心地よく歌えている感覚を大切に、ハンドサインや楽譜での音の上昇下降の確認など視覚で捉えながら歌うことを通して音程の確かさを求めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な表現方法を聴き比べ、表現を工夫するとはどのようなことかを気付かせていく。 ・音楽を聴いてどんな感じがする（感受）、それは音楽がどうなっているから（知覚）を考える機会を積み重ね、音楽の感じを表す言葉と共に音楽の諸要素に触れて実感しながら言葉で理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の単元で学んだこととの関連を常に意識し、学習が積み上がって学んできたことを意識しながら、次への見通しをもたせるようにする。上学年の演奏などを鑑賞することで、憧れや期待をもたせる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では一人一人が自分の音域や得意を把握し、よさを認め自信をもって歌えるようにする。 ・音譜・休符・記号や読譜では、楽曲の中で反復して確認し定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲家の意図を強弱や速度などから読み取り、それを演奏に生かして表現する活動を通して、演奏技術を向上させるとともに、自分なりの意図をもって演奏できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な音楽、多様な演奏に触れる機会を通して、音楽経験を広げ、普段触れる音楽との相違を考えさせ、生活の中の音楽との関わりを積極的にもつように促す。